

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和元年度)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ⑤農林水産業分野 (2/7)

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
森里海連環高津川流域 ふるさと構想特区 (益田地区広域市町村圏事務組合)	4.1	4.5 進捗度 ・路網整備と計画的施業の推進 82% ・地域資源を活用した農村定住 ・交流促進 152% ・高津川流域の水質浄化及び川と海の水産資源の維持・増殖 122%	3.8 規制の特例等 ・地域限定特例通訳案内士育成等事業 ・特定農業者による特定酒類の製造事業等  地域独自の取組 ・壊れない作業路網整備事業 ・森林資源活用事業等	4.0	<p>・「森」について、数値目標(1)－①原木生産量が当初(平成27年度)の生産量を下回った。路網の整備については着実に進んでいるというが、生産量が減少傾向にあることについては何らかの原因があつたのと考えられる。「搬出体制の見直し」がなされ、新体制の中で効率化を図るところまで進捗していない」との説明があるが、もう少し深い分析が必要ではないか。PDCAサイクルを回すなど検討を進めてほしい。</p> <p>・インバウンドを中心とした観光客の増加、地域限定特例通訳案内士の活動回数等、目覚ましい成果を挙げているが、今後コロナ禍の下で求められる新たなツーリズムについて検討が必要となろう。新規就農者が増えていることから、定住促進に向けた交流への重点化もあり得る。</p> <p>・数値目標(2)－①「交流人口」については、実績値も進捗率も大きく増加している。数値目標(3)－①「環境保全活動等の住民参加人数」は、引き続き上昇傾向にある。また、数値目標(3)－②「環境保全団体の育成」の実績についても、毎年1団体ずつではあるが、着実に増加。地域独自の取組について、活発であると評価できる。全体として、望ましい傾向にある。</p> <p>・「川」については、高津川の環境保全活動に関わる者や団体数でその水質保全を示しており、目標値を大幅に上回っているが、加えて流域の人達に共通の意識を生む源となっていると考えられる。アユが回復し、共通意識がさらに高まることを期待する。</p> <p>・コロナ禍のためインバウンドは当面は期待できない。新たな戦略を構築する必要がある。田園回帰を促進し、半農半X的な就業者を増やすのは1つの方向。高津川ならではのライフスタイルをアピールしてはどうか。移住者を増やすには情報インフラの整備が重要。</p> <p>・数値目標(2)－②「地域限定特例通訳案内士の活動回数」は、大きく目標値を上回っており、目標値の上方修正が必要。</p>